

# 『Re：タナトスのガールフレンド』

〔原案〕

女は高熱を出していた。

男は風邪薬を買いに出かけた。

死神が部屋にやって来た。

男の死期は近づいていた。

死神は男を迎えに来た。

女しか部屋にはいなかった。

死神は女に用はなかった。

女は男の帰りを待っていた。

死神も部屋で待つことにした。

男はなかなか帰ってこなかった。

なんにもならないのに出会ってしまった、ふたり。

〔登場人物〕

あやめ・・・友介の交際相手。風邪を引いて寝込んでいる。

シキ・・・死神。友介を迎えに来た。

友介・・・あやめの交際相手。

※この作品は、上演を前提としない演劇ユニット「関係舎」の辻本直樹氏

より、『作品タイトル』、『上記の原案』、『登場人物の簡単な設定』を  
買い取り、そこから作品として創作を行なっています。

〔場〕

あやめの部屋の中。

比較的家賃の安い、冷房もついていないような古い2階建て木造アパートの2階。

特に凝ったインテリアではなく、テーブル、ゴミ箱、扇風機がある。

テーブルの上には、箱ティッシュ、スマートフォン、体温計、拳大の少し大きめの石。

その部屋の中で、あやめが羽毛布団にくるまり寝ている。

布団の傍らには、飲みかけのポカリスエットが転がっている。

猛暑のある日の午後。

あやめ、季節外れの羽毛布団くるまりに包まり、寝ている。

シキ、まるでそのままここへワープしてきたかのように、あやめの部屋にいる。靴は履いたままである。

暑さに顔をしかめながら、ゆっくり部屋を見渡し、あやめの布団に抜き足差し足近づくと、

あやめ

(うなされながら) bふぁおい f v ね v j るい b d s ああああや  
だやだやだやだ、えー・・・(何度か咳をする)。

シキ、驚いて飛び退く。

布団の隙間からは、寝ているあやめのおでこに貼られた冷えピタが見える。

あやめ、咳が止まらず、布団から手を出し、ポカリスエットを手探りで探すが見つからない。

シキ、ポカリスエットを掴んで、あやめへ手渡す。

あやめ

ああ、ありがと・・・。(ポカリスエットを飲む)

シキ

どういたしまして。

あやめ、部屋の中にいるシキに気づき、

あやめ

・・・え、誰？

シキ

・・・。(自分の後ろに誰かがいるかのように振り向く)



しい方向性の言葉という方向性？

シキ いやいやいや、

あやめ え、じゃあ、なに？

シキ あのー、私は冥府から発注を頂いて、間もなくお亡くなりになる人間の皆様の元に向いて、その死を看取り、その方の魂を冥府にお運びしているんですね。この仕事が、一般的に「死神」と呼ばれていて、私いまその仕事中、という・・・。

あやめ ・・・・バンギヤか？

シキ 違います。

あやめ 新興宗教？

シキ 違います。

あやめ あ、どつきりか！

シキ 違います！

あやめ あの私、結構真剣に聞いているんですけど。

シキ だとしたら、私も結構真剣に言ってるんですけど・・・。もう一回言いますね、私は死神で、友介さんにはお会いしたこと無くて、

あやめ じゃあ、どいつの差し金だ。

シキ 差し金とは、

あやめ もういい加減にしてよ！っていうか死神って、何それダツさ、

シキ は？

あやめ あ・・・ちよい待ち、(数回咳をして) あ、いたた(脇腹辺りを押さえながら)

シキ え、あ、大丈夫ですか・・・？

あやめ ちょっと調子が・・・だから友介、いま薬買いに行ってくれてて。

シキ そうだったんですね。なんか、すごいタイミングで来ちゃって、本

当にごめんなさい。

あやめ 本当だよ・・・。

シキ (あやめの額に触り) あー、熱すぎ、

あやめ 冷たっ!!!

シキ (慌てて手を離しながら) あ、ごめんなさい、

あやめ え、なに、冷たっ！

シキ あ、私の体温4℃なんで。

あやめ 4℃?! え? (シキの額に触り) あ、冷たっ! え?! あんた、死んでるんじゃないの?

シキ ああ、考えたこともなかったですね、自分が生きてるのか死んでる

のかなんて。そもそも、死神って生きてるんですかねえ? 死んでるんですかねえ?

あやめ え、死神って・・・、

シキ なんですか?

あやめ 死神って、なんかコナンでいうところのジンとかウオツカみたいなことじゃないの?

シキ コナン・・・?

あやめ あー、コードネーム的な、

シキ ああ、違います違います。なんていうか、あなたが人間なら、私は死神、みたいな・・・。

あやめ 全く意味がわからない。

シキ いやいやいや、いま一番簡単な説明しましたよ私。

あやめ あー、あれか、熱でうなされてるのか。

あやめ、テーブルの上にある体温計を手に取り、熱を測る。

あやめ 38度9分。なるほど、そりやそうだよね……。

あやめ、突然自分の頬をビンタする。

あやめ 痛っ！え、痛いんだけど！

シキ そりやビンタしたら痛いですよ……。まあでも確かに、高熱で死にちよつと近づいたからたまたま私のことが見えた、っていう可能性はあると思います。基本的に人間には見えないんで、私。

あやめ え……。それは私を迎えに来たってこと、

シキ ではないです、大丈夫です。

あやめ よかった……。いやいやよくないよ、え、なに、死神って、

シキ え、もう一回説明しないとダメですか？

あやめ うん。

シキ (大きなため息をつき、高速で) 私は冥府から発注を頂いて、間もなくお亡くなりになる人間の皆様の元に向いて、その死を看取り、その方の魂を冥府にお運びしているんですね。この仕事が、一般的に「死神」と呼ばれています。ですから、私はバンギャでも新興宗教でもどつきりでも差し金でもありません。

あやめ ……はあ。

シキ なんとなく、わかってくれましたか？

あやめ わかんない、かな……。

シキ まあ、わかんないですよね、生きてるうちに会うことなんてそうそ

う無いし。あ、普段はこういうこと、ほとんどないですよ。こう、

対象者がいない、とか、他の人に会っちゃう、とか。

あやめ それモロ今回じゃん。

シキ はい、噂では聞いたことあったんですけど、わたしも初めてのこと

で……。おそらく発注時の申し送りかなんかのミスだとは思うんですけど……。

あやめ で、ここに来たのは、どういう……。

シキ 発注の内容としては、この部屋で亡くなる友介さんを看取って、魂を運送する予定でした。

あやめ ……。

シキ 一応10分〜15分くらいで終わるはずの案件だったんですが、

あやめ え、待って、

シキ ……？

あやめ 友介をなんて？

シキ 友介さんを看取って、

あやめ 看取る？

シキ はい。

あやめ ……？

シキ あれさっき、私の仕事の説明しましたよね？

あやめ ……友介、死ぬの？

シキ 私がここに来ているということは、そうです。

あやめ は……。ちよつと、変なこと言わないでよ……。

シキ いや、変なものにも、

あやめ え、いきなり自分の彼氏が死にますって言われて、信じられると思

う？

シキ そう言われても、私はそうとしか。

あやめ 冗談だよ、

シキ ……

あやめ ……

シキ あの、私があなたを騙して傷つけようとか、お金を盗もうとか、もしそういうふうな思っていたなら、ここまでの時間ですぐに出来

たはずですよ。でも、一切してません。だって私は、友介さんが帰っ

てきて、死ぬのを待ってるだけだから。

あやめ ……え、何とかならないの？

シキ 決めたのも殺すのも、私じゃないので…。

あやめ 何で死ぬとか、そういうのは？

シキ 最近個人情報管理が厳しいので、私も教えてもらえないんです。

あやめ ……誰に頼めばいいの？

シキ え？

あやめ その、友介が死ぬって決めた奴に直談判する。

シキ 無理だと思います。

あやめ なんて！

シキ そのためには、まずあなたが死なないと…。

あやめ ……

シキ 生きて三途の川は渡れないですから。

あやめ じゃあ、どうしたら、

シキ どうしようもないです、これは本当に…。

あやめ ……

シキ 人はいつか死にます、それが早いか遅いかだけの話です。

あやめ ……

シキ ……

あやめ、咳が止まらなくなる。

シキ あ、(駆け寄り背中をさする)

あやめ うえつ、ちよちよちよ冷たい冷たい冷たい…！

シキ え、

あやめ 手！

シキ あ！ごめんなさい！

あやめ も…。(咳が止まらない)ごめん、ちよつと横にならせて。

シキ 大丈夫ですか？

あやめ 色々としんどい…。

シキ あ、(ポカリスエットを飲ませる)

あやめ ありがと…。

シキ 友介さん、どれくらいで帰ってくるか電話してみます？

あやめ ああ、お願い…。

シキ、テーブルの上のスマートフォンを手に取り、

シキ ……あれ？

あやめ ……？

シキ ああ、私人間じゃないからこのスマホ反応しないみたいです。

あやめ マジか……。

シキ ごめんなさい……。

シキ、あやめにスマートフォンを返す。

あやめ、友介に電話をかける。

あやめ んー……？

シキ 出ないですか？

あやめ ずっと話し中……。

シキ あらま。

あやめ はあ……。

シキ あの、私のことは本当に気にしなくていいんで、ゆっくり寝ててください。

あやめ でも帰ってはくれないのね。

シキ 仕事なので。

あやめ (大きなため息)……ああ、そうだ、4℃。

シキ 4℃って呼ばないで下さい、ちゃんと名前ありますから。

あやめ あの、ちよっと手、貸して。

シキ あ、はい。(あやめに手を差し出す)

あやめ (シキの手を額に当て) 気持ちいい……！

シキ おおお、お役に立てて何よりです。

あやめ (シキの手を胸に当て) うう、痛……。

シキ えええ、あ、私女性の方は残念ながら、

あやめ (シキの手を脇腹に当て) いった、はあ……。

シキ 大丈夫、ですか？

あやめ ああ、ごめん気にしないで……名前は？

シキ あ、シキです。

あやめ 私あやめ。

シキ すみません、お邪魔しちゃって。

あやめ 本当だよ、あんたが来なかったら友介死ななくて済むのに。

シキ まあ……。

あやめ 困ったなあ……。

シキ ……あの、この際だからっていうか、普段人間と話せる機会がほとんど無いので、ちよっと聞いてみたいことがあるんですけど、

あやめ なに？

シキ やっぱ、大事な人が死ぬのって、嫌なんですか？

あやめ 嫌っていうか、悲しいっていうか、

シキ へー……。

あやめ え、普通そうでしょ？！

シキ そう、なんですかね。

あやめ シキは家族とか大事な人が死んだら悲しくないの？

シキ あ、私たちは死ぬとかないんですよ、もうずっとこのままっていうか。

あやめ はあ、

シキ だから私こう見えて582歳です。

あやめ マジで？！

シキ 冥府じゃこれでも若造ですよ……。

あやめ 人生の大先輩か……あ、でも人でも無いし生きても無いのか。

シキ そうですね。ああ、だからごめんなさい、よくわからなくて。って  
いうか、わかったらこんな仕事やっつけられないですよ、何千何万っ  
て運ばなきゃいけないのに。

あやめ ……真面目なんだね。

シキ え、私？

あやめ うん。

シキ いやいやいや、そんなそんな。

あやめ だって普通、ここまで死なせないでって言われたら、少しぐらいは  
何とかしてくれたりしない？

シキ あー…、じゃあ、死ぬのは防げないですけど、魂を冥府に運ば  
ないでここに残すことはできます。

あやめ 友介が死んだあとも、一緒にいられる、ってこと…？

シキ はい！

あやめ 本当に？！

シキ ただし、成仏ができないので最終的に悪霊になります。

あやめ うわまじか…。

シキ ポルターガイスト、不慮の事故、挙句の果てには呪い殺されます。

あやめ ああ…。

シキ 始末書数枚で出来ますけど、どうしますか…？

あやめ いいや、大丈夫…。

シキ すみません、でも本当に、出来そうなことってそれぐらいです。

あやめ いや、ありがとう。なんか大変だね、そっちはそっちで。

シキ いやあ、全然そんなことないですよ。死神は死神でも、うちは本当  
に魂を冥府に運ぶ、ただそれだけを専門にやっているので、神とか言

ってる癖に扱いは運送業だし。だから、こんな格好してますけど、  
ぶっちゃけブルーカラーなんで。

あやめ へえー。

シキ 毎日指定された場所に行って、人間が死ぬ所見て、魂持って冥府に  
行って、いつてらっしゃいませーって送り出して、また指定された  
場所に行って、人間が死ぬ所見て、の繰り返しです。

あやめ うわ病む…。

シキ 私は日本人の担当なんで、まあ紛争とかもないし結構余裕ある方な  
んですけど、動物の、特にネズミとかハムスター専門の人とかはも  
うね、どブラックですよ、あいつら寿命短いんで。

あやめ え、人以外にも死神来るの？

シキ 生きとし生けるものにはなんでも来ますよ。

あやめ すご。

シキ 昔は結構そのままだったみたいなんですけどね。あいつらって下級  
の霊だから自力で冥府に上がれないんで、ほっとくと人間に取り憑  
いて一緒に冥府に上がろうとするんですよ。で、まずいぞってこと  
で、今はちゃんと迎えに行ってるっていう。ずいぶんと管理社会  
になりましたね…。

あやめ でも、別に死神にとつちや、うちらが取り憑かれようがどうなろう  
が関係ないでしょ？

シキ ちよ、なんてこと言うんですか！私達は、あなた方がいないと存在  
できないんですよ？

あやめ え？

シキ あのー、死神とか冥府とか神様とか、そういうのを考えだしたのっ



て元を辿れば人間じゃないですか。聖書とかだつて、結局書いたのは人間だし。

あやめ まあ、そうだね。

シキ だから私達を生み出したのも、あなた方なんです。極端な話ですけど、もし全ての人間が神とか、天国とか地獄とかを綺麗さっぱり忘れてしまつたら、その時は私達も消えます。

あやめ ……わかった、

シキ はい？

あやめ みんないなくなつちゃえば良いんだ、

シキ ……ん？

あやめ この世界の人達がみんな死んじゃえば、死神も綺麗さっぱりいなくなる！

シキ なんて安直なジェノサイド……。しかも、それじゃあやめさんも

友介さんも死んじゃってますよ？

あやめ あ、そっか。

シキ もー。

あやめ えー、どうしたら、

シキ だから、無理なんですって。何度も言ってますけど、私じやどうにも出来ないんです。

あやめ ……ほら、やつぱり真面目。

シキ 真面目っていうか、仕事はちゃんとしないと、私達がいる意味無くなつちゃうんで……。でも、あやめさんにこんなに「死なせないでー！」って面と向かつて言われちゃうとなあ、私も困っちゃういましたね。

あやめ そっか。

シキ なんで見えちゃったかなあ、私。

あやめ 私も、なんでこんな熱出ちゃったかなあ。

二人、可笑しいのか悲しいのか、顔を見合わせ笑ってしまう。

シキ ……友介さん、遅いですね。

あやめ うーん……。

シキ 出かけてからどれくらい経つんですか？

あやめ ああ、二時間半、とか？

シキ え、薬買いに行ってるんですよね？

あやめ うん、その駅前の薬屋。

シキ え、それおかしくないですか？

あやめ うーん、

シキ よくあるんですか、こういうこと。

あやめ うーん……ある。

シキ なるほど。

あやめ 全然連絡とれなくて、やっと繋がったと思ったら「駅でおばあさん助けてて」とか、「悩んでる友達放っておけなくて」みたいな。

シキ はあ……。

あやめ だから、ひよいてどこか行っちゃうし、行っちゃったらしばらくは帰ってこないし。

シキ その間、あやめさんは？

あやめ 待ってる。

シキ ずっと？

あやめ うん。

シキ あやめさんの方がよっぽど真面目ですね……。

あやめ ……とかいって、どうせどっかで遊んでるんだらうけど、ね。

シキ え？

あやめ さっき薬代で一万円札渡しちゃったからなあ。

シキ え？！

あやめ 今頃はきつと、銀色の球になって確率変動の肥やしになってるよ。

シキ 確、なんですか？

あやめ パチンコ、わかる？

シキ ああ、あのめつちやうるさい所ですよ、お迎え行ったことありません。

あやめ え？

シキ あ、男の人が女の人に刺し殺されて。

あやめ ああ、こわ。

シキ やっぱりあれは人の恨みを買うんですか？

あやめ まあ、賭け事だからそういうのもあるとは思いますが。

シキ 恐ろしい……。

あやめ 前にさ、友介が「ちょっとランニングしてくるわ」とか言っ出てったあとに、コンビニ三行「こう」と思ってパチンコ屋の前通りかかったら、いたんだよねえ、中に。で、流石にむかついてさ、家帰ってきたら聞いただしてやろうって思ってたんだけど、帰ってくるなり「あやちゃんの好きなお菓子いっぱいもらって来たよー！」って。もうね、笑うしかなかったよね。

シキ はあ……。

あやめ あ、あと、家でご飯作って待ってるって言ったのに、「余命幾ばく

もない友達が、最後にマチュピチュ見たいって言うてるから、俺一緒に行ってくるわ」って突然ペルー行っちゃって。(テーブルの石を手に取り)あ、これその時のお土産のマチュピチュの石。

シキ マチュピチュの石……？

あやめ ……で、一週間後にやーっと帰ってきたと思ったら、髪も服もみ

んな女物の香水臭いっていう。

だから来た時に、「あの野郎、やっぱり」って言ってたんですね。

あやめ ああ、そうそう！

シキ 気づいてるのに、どうして友介さんに聞かないんですか？「どこ行ってたの？香水の匂いするよ」って。

あやめ ……聞けるわけ無いじゃん。

シキ どうして？

あやめ そんなこと言ったら、また殴られるから。

シキ 殴られるって……もしかしてあやめさん、脇腹とか……、

たまにね、機嫌悪くなったり、酒飲んで帰ってきたりすると。

シキ そんなどうしようもない人、さっさと別れたらいいじゃないですか！

あやめ お、言うねえ。

シキ だってあやめさんのこと騙してるし。私いま、この仕事してて初めて成仏してほしくないなって思いました。

あやめ ウケる。まあでもそうだよ。ほんと、なんで付き合ってたんだろ……。

シキ ……。

あやめ ……なんでだと思おう？

シキ そんな、私に聞かれても、

あやめ ま、そりゃそつか。

シキ でも、魅力があるから付き合ってるんですよ？

あやめ 魅力、魅力か……、

シキ なんか、良い所ないんですか、友介さん。

あやめ 良い所？えー……普段は優しい。

シキ 他には？

あやめ 他には？えー……、なんだ……？

シキ え、無いんですか？なんか、料理ができるとか、掃除をちゃんとや

つてくれるとか、

あやめ 家事は全部私がやってる。

シキ Oh……。

あやめ 友介、洗濯物を洗濯かごに入れることすら出来ないから。

シキ 完全にアウトだ。

あやめ だからほら、放っておけないっていうか、やってあげないとつてな

つちやう。

シキ あー……。

あやめ まあ、よろしくないことなのは重々承知で。

シキ 友達とかに言われませんか？「早く別れなよ！」つて。

あやめ ……なぜいま、人類にはみな友達というものがいる、という前提

でものを喋った。

シキ あっ、

あやめ (大きなため息)

シキ ……ごめんなさい。

あやめ 謝られるとより辛い。

シキ ……。

あやめ うそぞ、ごめんつて。あ、友達いないのは本当だけど。

シキ あ、はい。

あやめ だから、生活の中に友介しかいないのよ、人が。もちろん職場の人

とか家族とかいるけど、それはさ、まあ別物っていうか。だからこ

ういうこと話したのも、シキが初めて。

シキ そうなんです。

あやめ でも、他人に話してみて思った、やつばこの生活ダメだね。いや、

分かっただけ。

シキ ……。

あやめ しかも友介死んじゃうんでしょ？

シキ はい。

あやめ ……また一人か。

シキ いやでも、この先まだまだなにかあるかもしれないし、

なにかつて、なにが？

シキ また彼氏ができたりするかもしれないし、それこそ友達だつてでき

るかも、

あやめ かも、ね。そんなのさ、わかんないじゃん。また彼氏できてもフラ

れるかもしれないし、友達できても裏切られるかもしれないし。未

来は希望で溢れてるみたいなの、私ほんとに信じてないから。

シキ ……。

あやめ ああ、だから私友介といるんだわ、友介といれば、とりあえずいま

が寂しくないから。

シキ ……嘘だ。

あやめ は？

シキ 嘘つきは吼々処くくしよに落ちろ。

あやめ く、え？

シキ 吼々処くくしよっていう、顎に穴開けて舌引っ張り出して、毒塗られてそこに虫がたかる、っていう地獄があるんです。

あやめ やば。

シキ いや、それはどうでもよくて、あやめさん、友介さんといて寂しくないって、それ本当に思ってます？

あやめ 思ってるよ、だから一緒にいるって言ったじゃん！

シキ 嘘つかれてるってわかっているのに？しかも殴られてるのに？

あやめ シキは人間じゃないからわかんないでしょ？

シキ 人間とか死神とか関係ありますか？この際もう関係ないですよね？だから、もし本当に嘘偽り無くそう思ってるなら、もう私はなにも言えないです。でもそうじゃないなら……、

あやめ ……？

シキ あ、私、あれ？

あやめ ……シキ、

シキ ……？

あやめ それが、「悲しい」っていうこと、じゃないの。

シキ ……！

あやめ いまさ、胸がぎゅってしてしょ、

シキ はい。

あやめ で、目から、なんか水出そうになったでしょ、

シキ はい。

あやめ 人間は悲しいと、そういうふうになったりする。

シキ いま、誰かと別れる寂しさとか、裏切られる辛さとか、言葉で知ってた「悲しい」っていうことが具体的にどういうことなのか、なん

となく分かりました。

あやめ ……。

あやめ ……。

シキ これ、この先の仕事に支障でそうですね。

あやめ あ、どうしよう、ごめん……。

シキ 死神失格です。

あやめ ……でも私だって、ごまかしてたこと全部シキに言われちゃったから、おあいこってことにしてよ。

シキ ……はい。

あやめ はい、もうこのまま友介帰ってこなきゃいいのにな……。

シキ いや、そうしたら私もこのまま帰れないんで、

あやめ いいじゃん、いなよ。

シキ ……。

あやめ そうしたら友介ともお別れしなくていいし、シキとは仲良くこのま

ま一緒にいられてさ、

シキ あやめさん、

あやめ ……。

シキ 私ご飯作るのめっちゃ上手いし、別に洗濯物そこら辺に放り投げた

って怒んないし、ルームシェアするには最高の相手だと思っただよ

ね。

シキ あやめさん！

あやめ

・・・嘘だつて、ごめん。もうどうしたらいいかわかんないよ。

シキ

え？

シキ

じゃあ、人間のお友達がいらないあやめさんに的確な答えをひとつ言いますね。早く別れなよ！

あやめ

まさか、私の人生に、こんなに真面目に何か言ってくれる人がいるなんて、っていう。

あやめ

正論嫌い。

シキ

残念ながら人では無いんですけどね。

シキ

いいです別に嫌いでも、あーもう、なんで私こんなに人間の、それも生きてる人のことの心配なんてしてるんだろう。あの、人間の寿命ってただかだか80年とか90年じゃないですか、それって私にとってみればすごく短いんですよ、58歳の私からしてみたら。

あやめ

それな・・・もし別れるって言ってまた殴られたらどうしょ、っていうか流石に、殺されるかも。

その短い何十年かの間に、人間は生まれて育って恋して死ぬじゃないですか。もうね、忙し過ぎ。生きてることただそれだけでブラック企業。でも、みんな自由に仕事を選べたり、勉強したり、好きな人が出来たり、子供が生まれたり、それって、初めて目が覚めた瞬間からこの格好で、毎日「死神」っていう仕事だけがあつて、58

あやめ

シキは見てるだけだからいいよねー。

2歳で初めて「悲しい」の意味がぼんやり分かるような私からしてみたらもう、羨まし過ぎますよ。だから、勿体無い時間の使い方しちゃダメです、なんとしても前へ前へ行かないと。あやめさんが友

シキ

見てるだけしかできないこっちの身にもなってくださいよ。

介さんと一緒にいることは前進ですか？停滞ですよ？もう友介さんボッコボコにぶっ殺してでも前へ行かないと、一瞬で死んじゃ

あやめ

まあ、頑張つて応援して、私にしか見えないんだし。でも部屋の隅で応援してるシキとか、見たら絶対笑っちゃうな。

いますよ！

シキ

じつとしてます、隅っこで正座して。

・・・

あやめ

ダメ、それも笑っちゃうから。

ちやダメです、なんとしても前へ前へ行かないと。あやめさんが友

シキ

じゃあどうしたらいいんですか！

介さんと一緒にいることは前進ですか？停滞ですよ？もう友介さんボッコボコにぶっ殺してでも前へ行かないと、一瞬で死んじゃ

あやめ

知らないよー。

いますよ！

シキ

ええ？

・・・

あやめ

あ、(再び咳が出る)

あやめ

シキ

あああ、

シキ

ごめんなさい、言い過ぎました。

シキ、あやめの背中をさする。

あやめ

全部言ったな。

あやめ

冷た冷た冷た、いまわざとやったでしょ！

シキ

はい、もうなにも言いません。

シキ

わざとじゃないです、真面目です！

あやめ

・・・ありがとう。

シキ

わざとじゃないです、真面目です！

あやめ だよ真面目。

あやめ、ポカリスエットを飲みきってしまっ。

シキ (空のポカリスエットを指差し) それ、まだありますか？

あやめ ああ、どうだろ、

シキ わたし買ってきましようか、

あやめ あ、ごめんお願いしても・・・、

二人、何かおかしいことに気づき、

二人 いやいやいやいやいやいやいや。

あやめ 見えないし。

シキ 忘れてたー、その前提完全に忘れてた。

あやめ あぶね。

シキ あー、とりあえず、ちよつと冷蔵庫見てくださいね。えー、

あやめ 台所そっち。

シキ はい。

シキ、台所へ。

あやめ、ティッシュで鼻をかんだり、スマホで友介に電話をかけた  
てみたりする。

シキ、台所から手で持てる限りのポカリスエットを抱え、部屋へ  
と戻ってくる。そのままポカリスエットをボーリングのピンの

ように並べ、ポカリスエットを転がして倒そうとするが、うまく  
倒れない。

シキ ストライーク！

あやめ じゃないし、いや何やってんの？

シキ いやいつばいあつたんで。

あやめ いやこれありすぎでしょ、え、わたしこんな買ってないし、

シキ 友介さんじゃないんですか？なんかダンボールで置いてありまし  
たよ。

あやめ あー、あいつ、わたしの Amazon プライムでポチったな。

シキ あま、え？

あやめ 通販。お金は私のクレジットカードから落ちます。

シキ ああ・・・。

あやめ、シキの足元を見て、

あやめ ていうか、シキちゃん、

シキ はい？

あやめ お部屋の中ではお靴を脱ぎましよう、って死神さんは習わないのか  
な？

シキ へ、ああ！

あやめ いやここまで気づかなかつたわたしもわたしなんだけど。

シキ 確かに。いや、このまんまここに現れちゃったから玄関通ってなか  
つたんで、失礼しましたー。

シキ、その場で靴を脱ぎ、靴を持って玄関へと向かう。  
玄関からはドアを開ける音、一気に飛び込んでくる蟬の音。  
少ししてドアは閉まり、鍵とチェーンロックをかける音がする。

シキ 無理無理無理無理無理無理無理……。

あやめ えええ、なにになになになにに、

シキ、扇風機の前に座ってスイッチを押し、

シキ はああああああああ……生き返った。

あやめ どうした？

シキ いや、外、暑すぎて。

あやめ なんでドア開けたよ！

シキ いや、友介さんまだかなうって、

あやめ もういいよそんな別に。

シキ やっぱ体温が4℃だどこの暑さは致命的ですね。みて、結露。

あやめ 汗じゃなくて結露なのそれ。

シキ あ、あと……いや、なんでもない。

あやめ え、なにニヤニヤしてんの、

シキ あとで、あとで、ね。

あやめ えー？なんだよ……。

シキ ……あの、「待ってる」って、なにしてるんですか？

あやめ え？

シキ 友介さんが帰ってくるのを待ってる時。

あやめ ああ、待ってるって、別になんにもしないよ。

シキ なんにもしないってことはないでしょ、

あやめ いや本当に、なんにもしてない。ただ窓から外見てる。

シキ 窓から外見てるじゃないですか！

あやめ それ、なにかしてるに入らないでしょ！

シキ 入りますよ、立派になにかしてますって。

シキ、窓に近づき外を眺める。

窓からはアパートのすぐ近くにある小学校の校庭が見える。

シキ あれは、学校？

あやめ そう、小学校。

シキ へえ……。

シキ、おもむろに窓を開ける。

部屋に夏の暑い風が流れ込み、小学校の校庭の喧騒が聴こえる。

シキ うわあっつ、

あやめ 学習能力……。

シキ (校庭を眺めながら)あれは、なにしてるんですか？

あやめ (シキと一緒に校庭を眺めながら)ああ、ドッジボール。

シキ へえー。

あやめ あの四角い線の中にいる人にボールを当てるので、最後の一人になるまで当てて、生き残った方のチームが勝ち。

シキ 野蛮・・・！

あやめ 確かに、いま思うと結構野蛮だね、あれ。

シキ あ、当たった、

あやめ そうすると線の外に出て、また中の人を狙うわけ。

シキ なるほど。

あやめ 嫌いだっとなあ、ドッジボール。

シキ あやめさんもあれぐらいの頃はよくやっただんですか？

あやめ よくっていうか、なんか小学校の頃ってなにかにつけてドッジボ-

ルなんだよ、たぶんルールが単純だからなんだろうけど。クラスみんなで遊びましょう、みたいな時はだいたいドッジボール。

シキ それ飽きませんか？

あやめ それがどうやら飽きないみたいなんだわ、他の子たちは。しかもみんなほとんど強くなるし、で、強くなった奴の球とか当たるとめっちゃ痛いわけ。しかもわたしみたいな友達いない奴なんて生かしておいても面白くないからさ、しょっぱなに標的にされて一瞬でおしまい、もう最悪だよな。

シキ ……。

あやめ そう、だからわたし考えて。(校庭を指差し)あのコート你真ん中の線あるでしょ？

シキ はい、

あやめ あの端っこの、ちようどEの字になってるところぎりぎり立つのよ。すると、どうなるでしょう？

シキ え？えー、どっちのチームにも入れる・・・？

あやめ ー、当たってるっちゃ当たってるけどちょっと惜しい！あのね、

どっちのチームの人からも気付かれないの。

シキ え、そっち？

あやめ そう、だから目の前を球がひゅんひゅん飛んでくのをただ見てるだけで、たまにバレそうになるともう当たってますよーって顔して、で、終わるのを、ずーっと待ってる。

シキ ちっちゃい頃からずっと待ってたんですね。

あやめ 確かに。でもさ、いまはちゃんと混ぜておけばよかったなと思う。標的にされるなら逃げればいいし、それが嫌ならちゃんとボール取ればいいんだし、ボール取れないなら練習すればいいんだし。それで喜んだり悔しがったりが終わるのを待ってるんじゃないかって、わたしもそこに混じってたほうが、多分、よかつたんだと思う。

校庭から、授業の終わりを告げるチャイムが聴こえてくる。

子供たちの声が遠ざかり、蟬がひたすらに鳴いている。

あやめ おわった。

あやめ、窓を閉め、

あやめ シキはわたしのこと、ちゃんと待ってたね。

突如、玄関のドアの鍵を開ける音がする。

あやめ えっ、シキ、



シキ おっ、

ドアの開く音と共に飛びこむ蟬の音、しかしチェーンロックでドアは開かない。何度かガチャガチャとドアを開け閉めする音、その度に歪む蟬の音。

シキ ふふふふふ、

あやめ シキ？え、なにこれ、

シキ、玄関を覗き込む。

あやめ ねえ、シキ！

シキ こっち来て！

あやめ いや、

シキ そんなところからじゃ見えないよ？

あやめ は？

あやめ、シキに駆け寄り、玄関を覗き込む。

ドアを開け閉めする音がどんどん乱暴になる。

あやめ ちよ、あんた、いつチェーンロックかけたの？

シキ お部屋の中ではお靴を脱ぐって教えてくれてありがとうございました。

あやめ もー、

シキ ふふふ、

あやめ え、これ、どうすんの。

シキ あー、どうしましょ。

あやめ え、

シキ あんまりなんにも考えてませんでした。

あやめ もー……。

シキ でも、ただ待ってるよりこっこのほうが面白くないですか？

あやめ ……まあね。

シキとあやめ、玄関を見ながらクスクスと笑っている。

乱暴に開け閉めされるドア、鳴りやまない蟬の音。

いつかは終わってしまう時間が、少しでも先送りにされていく。

無断複製・転写を禁じます。

作品に関するお問い合わせ、上演許可等につきましては、カミグセ (info@kamiguse.com)までお問い合わせください。